

ご存じですか！文化財

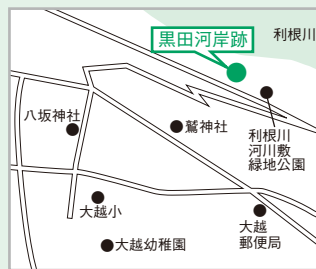
「黒田家文書」

市指定有形文化財
平成24年3月6日指定

42



問合せ
生涯学習課
(☎0480-62-1221)



所在地 大越地内

今回、ご紹介するのは「黒田家文書」です。

安永(1772～1780)年間と推定されている「利根川沿岸絵図」によると、利根川には多くの河岸場が利根川両岸にあり、陸路も各地から開かれていたため、物産の集散地と同時に交通の要衝ともなっていました。

利根川の右岸には行田方面から酒巻・中条(以上行田市)・龍蔵・長宮・稲子(以上羽生市)などの河岸があり、加須地域では大越河岸がその主たるものでした。これらの河岸(江戸時代後期)には関宿(野田市)、行徳(東京都中央区日本橋)などを中継地として日本橋浜町(同日本橋)に通じていました。河岸には船ならびに集まった多くの荷物を仕切る問屋があり、大越

河岸では黒田七左衛門、出井重左衛門が運営を行っていました。

明治期の大越には、上流から荒木河岸・黒田河岸・鈴木河岸がありました。河岸近くの堤防には倉庫が立ち並び、旅館や料理店もあり、集まった多くの人たちで賑わったそうです。黒田家には江戸時代の大越河岸の荷揚げに関する文書22点をはじめ、明治期から昭和初期までの黒田河岸の業務に関する文書など870点、年代不詳の401点を含め合計1293点の古文書があります。

これらの文書から大越河岸が利根川河岸のなかでも中心的存在であり、当時の物流の一大ターミナルとして河岸の隆盛を伺い知る貴重な資料となっています。



紹介者 黒田 清保さん(大越)